

 医師の異動

新任医師紹介

1月1日 産婦人科医師 荒井 貴子

退職医師

12月31日 麻酔科医師 神崎 亮

12月31日 産婦人科医師 伏見 萩子


 無料シャトルバス「尾上の松」便 開通

12月19日より、山陽電車「尾上の松」駅より当院までの直通のシャトルバスが開通致しました。
○定員:9名 ※車イスでのご乗車はできません。

ご利用される方へ

- 定員を超える場合はご乗車できませんので予めご了承ください。
- 指定場所以外からのご乗車や途中下車はできません。
- 時刻表は平成28年12月現在のものです。その後改正される場合もありますのでご了承ください。

運行日・運行時間等

月曜日から金曜日(祝日 及び 年末年始[12/29~1/3]を除く)
午前8時から午後5時の間に、30分間隔で運行(1時間あたり2往復・1日トータルで18往復)

時刻表

●山陽電車 尾上の松駅 ~ 加古川中央市民病院 シャトルバス

尾上の松駅発	00	30	始発	8:00	最終	16:30
加古川中央市民病院発	15	45	始発	8:15	最終	16:45

■尾上の松駅 北側ロータリー発:毎時00分、30分

■加古川中央市民病院 正面玄関発:毎時15分、45分

※市民病院と尾上の松駅間での途中乗降はありません。(道路交通事情により変更になる場合があります。)


http://www.kakohp.jp/medical_person/
 地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

患者支援センター地域連携室

 予約専用 TEL(079)451-8651 FAX(079)451-8653
 その他 TEL(079)451-8652 FAX(079)451-8654


きらり

[加古川市民病院機構 理念]

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます



CONTENTS

巻頭言 寺尾副院長あいさつ	2
NEW TECHNOLOGY	3
特集「消化器センター」	4-5
診療科紹介	6
登録医紹介	7
連携室ニュース	8

消化器センターについて

副院長(兼)消化器センター長(兼)
内科 主任科部長(兼)消化器内科 主任科部長

てら お しゅういち
寺尾 秀一



地域の先生がた、平素はたいへんお世話になっております。

当院消化器センターの大きな特色は、食道、胃、大腸、肝胆膵のみならず小腸も含めたすべての消化器疾患にトータルに対応できる消化器診療施設です。

2015年度の旧加古川市民病院時代の内視鏡合計件数は、すでに1万件を超えておりましたが、加古川中央市民病院の開設以降は、さらにそれを上回るペースで増え続けております。また消化器外科手術件数も大幅に増加しており、地域の先生方のご依頼になんとかお応えしたいと日々奮闘しているところです。

当センターでは、特に癌の早期発見数が大幅に増え、内視鏡治療で根治する割合が増えております。たとえば、胃のESD施行例数は2015年度の1年間で82例実施しておりましたが、この7月以降は年間換算で100例を超えるペースとなっております。さらに7月以降は、大腸腫瘍の内視鏡診断のエキスパートが加わり、大腸癌の早期発見・早期治療がよりレベルアップしています。特筆すべきは、早期大腸癌のESD(内視鏡的粘膜下剥離術)を開始したこと。これによって、従来内視鏡的治療が困難であった、例えば大きなLST(側方発育型腫瘍)の内視鏡的治療が可能になりました。また、当センターでは内科と外科の連携がたいへんスムーズで、内視鏡治療の適応を超える場合にも当センター外科で鏡下手術を積極的に行うようにしており、全体としてより低侵襲な治療を安全に実施するよう心掛けております。



消化器内科医師

当院には急性胆管炎で救急搬送されるかたが多く、これまでも内視鏡診療(ERCP 砕石 ドレナージ)の分野では播磨地域随一の実績をあげてきましたが、最近、EUSやEUS下穿刺生検(EUS-FNA)の施行例も着実に増加しており、小膵癌・胆道癌の発見が増え、また外科専門医の赴任によって根治可能な手術導入例も着実に増えてきています。

また従来から小腸カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡を駆使して、上部、大腸内視鏡では病変が見つからない原因不明出血源の発見、小腸悪性腫瘍の発見に積極的に取り組み実績をあげています。

大腸の分野では、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病)の分野での診療機能を充実させてきました。慢性肝疾患への新規治療導入も積極的に行っていますが、肝癌の治療においても外科専門医の赴任によってより積極的に行える体制を作りました。

放射線治療、化学療法、緩和治療といった従来からの強みをより発展させ、トータルな消化器診療を実践する、これが当院、消化器センターの役割だと考えています。



消化器外科医師

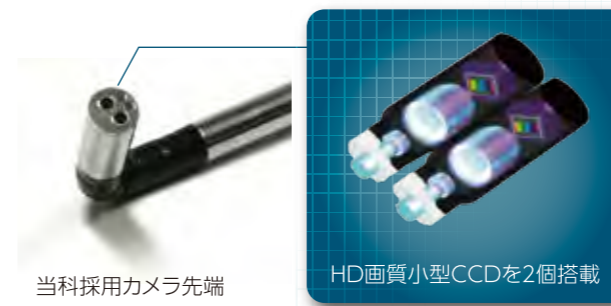
NEW TECHNOLOGY

加古川中央市民病院では、最新の医療設備・医療機器を導入し、その技術を駆使して治療を行っています。詳しい内容についてご紹介いたします。

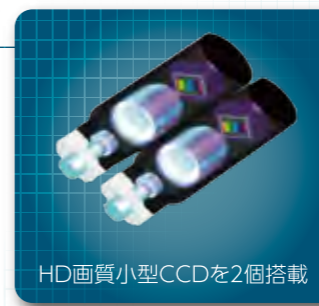
3D内視鏡について

外科 科部長(兼)消化器外科 科部長 **たかまつ まなぶ**
高松 学

胆嚢摘出術に鏡視下手術が導入され約30年が経過し、その間、大腸癌や胃癌治療に適応拡大が進み、現在では肝切や膵切除など高難易度手術にも導入され、内視鏡関連医療機器の目覚ましい進歩とともに鏡視下手術は発展してきました。手術操作に不可欠なエネルギーデバイスの開発と改良も重要であります。術者の眼となる光学機器の著しい進歩の貢献度はとても大きいと思われま。解像度の高いハイビジョンや3Dの画像が拡大画像で明瞭に観察できるようになり、今まで肉眼で視認できなかった、より細い血管やリンパ管、神経、膜、層などの微細な構造までもが識別できるようになりました。従来の解剖学的知見に加え、こうして高精細カメラを通して得られた微細解剖の知見が補完され、我々外科医の手術精度が高められたと考えます。鏡視下手術の最先端をゆく手術支援ロボットda Vinciも、surgeon consoleでは術者は2系統で送られてくる映像を左右別々の目で見て自然な3Dを自分の脳内で構築することができ、従来の内視鏡外科手術の欠点である、モニター上の二次元画像を見ながらの手術操作というストレスは全くなりませんでした。



当科採用カメラ先端



HD画質小型CCDを2個搭載

現在当科の鏡視下手術におきましても、高精細映像2Dモニターはもちろんのこと、3Dモニターも導入しています。頻用している3D内視鏡システムは、フレキシブルスコープの先端にHD画質小型CCDを2個搭載した二眼方式で、右目用と左目用の映像をモニターに表示します。そこで、3Dメガネを通して、右目レンズは右目用の映像だけを、左目レンズは左目用の映像だけを透すので、それぞれの画像を脳が合成して、奥行きを認識できるという仕組みです。



術中装着する3Dメガネ



メガネにレンズのみ装着するタイプ

こうして得られた高精細3D映像により正確な空間把握を実現することで、把持・剥離・結紮・縫合などの作業をスムーズに精緻に行うことができ、手術の精度向上、手術時間の短縮、ラーニングカーブの向上の点で、当科においてもその貢献度はとても大きいものがあります。



3D映像イメージ

腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術から、更には腹腔鏡下超低位前方切除術、腹腔鏡下胃全摘術、腹腔鏡下肝部分切除術などの難易度の高い手術まで活躍の場面は非常に多岐にわたっており、近々更に膵切除にも適応拡大していく方針です。



3D内視鏡手術

消化器内科のご紹介

新病院の内視鏡室には7つのブースがあります。うち一つは吐血などの緊急内視鏡をする、救急部からアクセスの良いやや大きめのブース、また一つはESDや超音波内視鏡を主体に常時稼働するやや大きめのブース、さらに一つは透視装置を備え、内視鏡+透視検査が手軽に行えるブース、そして通常の内視鏡検査を行うほか4つのブースというように、用途によって検査室の振り分けを行っています。さらに隣接する放射線科に3つの透視室があり、ERCPやバルーン内視鏡など透視を必要とする検査を行っております。

内視鏡室での日常をご紹介しますと、午前は上部内視鏡、午後は下部内視鏡を休む暇なく行っています。その合間を縫うように、超音波内視鏡、ESD(上部下部)、ERCP、ステント留置(上部下部、胆管、膵管)、小腸内視鏡などを行っております。新病院開院の7月から10月までの検査実施数は、EGD2320件、CS1298件、ESD(上部)27件、ESD(下部)3件、EUS85件、EUS-FNA16件、ERCP158件、小腸カプセル内視鏡7件、小腸バルーン内視鏡2件となっております。

地域の先生方からの紹介患者様はできる限り受け入れるように努力しているところでありますし、院内からは内科の他、救急科、小児科、小児外科などから日々臨時の内視鏡の依頼が入り内視鏡室、透視室は連日大賑わいです。

また、少しずつではありますが、消化器内科医師の増員があり、大腸ESDが本格稼働したり、内視鏡指導体制・カンファレンスがますます充実したりとその効果がみられます。若手医師の獲得、教育が非常に大事であり、今後も力を入れていかなければならないと考えています。

研究会・勉強会や、日々の症例のやり取りなどで地域の先生方と情報共有・交換を継続し、当院消化器センターの責任を果たしつつ、地域における消化器診療を牽引していきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。



消化器センター 副センター長(兼)
消化器内科 科部長
にしざわ あきひこ
西澤 昭彦



内視鏡室の充実、地域に開かれた病院をめざして
 多種・多様な症例に対応し、
 様々な研究会・勉強会を実施しています

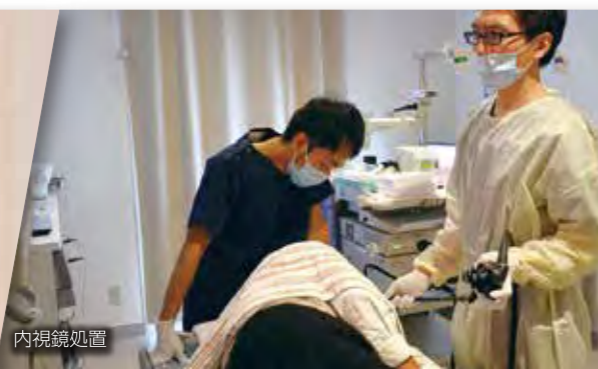
地域の中核病院としての責務を果たす
 スタッフを10月から増員し、手術までの待機時間の短縮、
 迅速な対応を心がけています

消化器外科のご紹介

加古川中央市民病院開院に伴い、消化器センターの本格的な稼働が始まりました。東西市民病院統合に先立ち、2015年4月から消化器を担当する医師は加古川西市民病院に集約したため、過渡期の間、特に手術治療を必要とする消化器疾患の患者様には、西市民病院のみでの対応とさせていただかざるを得ず、一部の方々、特に加古川東市民病院近隣の開業医の先生方には大変御迷惑をおかけすることになってしまいました。この場を借りて、お詫びさせていただきます。ただ、そのおかげもあってか、稼働直後から、あらゆる消化器疾患に対して非常にスムーズに対応することが可能となり、大きな組織になるとありがちな縦割りの障害なども無く、効率的な治療が開始できていると思っております。消化器外科領域においては、腹腔鏡手術では3Dカメラを導入し、より立体視の優れた状態で、単径ヘルニア、食道癌、胃癌、大腸、直腸癌、および膵腫瘍に対して鏡視下手術を行っております。低位直腸癌では適応に応じ内肛門括約筋切除術による、出来るだけ人工肛門を回避し肛門機能温存に努めております。膵臓癌においてはCattell-Braasch法による動脈処理先行による出血軽減を図った膵頭十二指腸切除を標準手技とし、切除範囲の大きくなる肝臓癌に対しては、積極的に経皮経肝門脈塞栓術を併用し、残肝機能に余裕を持たせた拡大手術を行っております。当センターのモットーとして、悪性疾患に関しては、確定診断がつき次第、手術まで出来るだけ待機期間が少なくなるように努め、また、急性期疾患には特に迅速な対応を行うこと心がけております。このため10月から消化器外科はスタッフを1名増員し総計9名体制となり、来春からはさらに増員を予定し、救急疾患も含めあらゆる消化器疾患に迅速に対応できると考えております。より一層、地域の中核病院としての責務を果たしく所存でありますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



消化器センター 副センター長(兼)
外科 科部長(兼)消化器外科 科部長
はらだ なおき
原田 直樹



診療科紹介

呼吸器内科

呼吸器外科

今回は、呼吸器領域の診療科を取り上げています。4月から呼吸器内科・外科が揃い、幅広い診療が可能になっています。

呼吸器内科



呼吸器内科 主任科部長(兼)
院内感染対策室 室長
にしうま てるあき
西馬 照明

東西の病院が合併して新体制となり、おかげさまで外来患者数・入院患者数ともに昨年を上回る状況です。この期待に添えるよう呼吸器内科のスタッフも少しずつ増員し、可能な限りの受け入れを行っています。今年の4月には呼吸器外科が設置され、新病院では同じ外来ブース、同じ病棟となったため、悪性・良性疾患に関わらずスムーズな連携で、すべてを当院で完結できる治療体制となってきました。

肺癌を含む悪性腫瘍では、侵襲が少ないよう考慮しつつ早期診断・早期治療に努めています。話題のがん免疫療法を含め、出来るだけ最新の化学療法を取り入れています。放射線治療も可能であり、緩和ケア治療にも力をいれていますのでぜひ御相談ください。

その他に、生理検査としては肺機能検査、呼気NO検査、睡眠ポリグラフ検査に加えて、気道抵抗測定(モストグラフ)が出来るようになり、さらに機器が充実しました。慢性咳嗽、喘息、COPD、間質性肺炎、SAS、感染症など、当院対応可能な呼吸器の分野は幅広いですが、当地域で最も信頼できる専門施設であるよう日々努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

呼吸器外科

2016年7月より加古川中央市民病院が開院し5ヶ月がたちました。おかげさまで新病院への移転は滞りなく完了しました。呼吸器外科は本年4月より西市民病院でスタートし、7月から新病院で手術を中心に呼吸器疾患の治療を行っています。当科は呼吸器内科と歯科口腔外科と同じ病棟(9階西病棟)にあります。呼吸器疾患の患者様については内科外科の垣根を越えてお互いに目の届く場所にあり、入院中の柔軟な対応が可能です。また毎週の呼吸器カンファレンスや毎月のカンサーボード(肺癌についてのカンファレンス)も行っており、手術が必要な患者様には迅速な対応ができます。呼吸器外科の手術で多いのは原発性肺癌や転移性肺腫瘍などの悪性疾患や、気胸や膿胸などの疾患です。いずれも積極的に治療しております。原疾患の治療もしっかりとした上で、低侵襲で術後合併症のリスクを減らせるように胸腔鏡手術も積極的に導入しています。7月から10月までの4ヶ月で27件の手術を行いました。全例に胸腔鏡を使用しており、胸腔鏡の視野でほぼすべての手術を行っています。疾患の性質上ご紹介いただく際には呼吸器内科初診が多いと思っておりますが、ご紹介いただいた患者様の治療方針については呼吸器グループで速やかに検討しておりますのでよろしくお願い致します。



呼吸器外科 主任科部長
いわなが こういちろう
岩永 幸一郎

登録医紹介

当院と連携いただいている登録医療機関をご紹介します。

おりべ内科医院

診療科：内科／消化器科／放射線科
駐車場台数：30台

所在地：加古川市東神吉町砂部 441-1

TEL.079-432-2336

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	-
午後16:00~19:00	○	-	○	-	○	-	-

織辺先生から

みなさんこんにちは。おりべ内科医院の織辺敏也です。加古川中央市民病院とのお付き合いは、私が平成元年に当時の加古川市民病院内科に勤務させていただいて以来、早いもので27年を迎えました。その間、終始市民病院のスタッフの皆様方には筆舌に尽くし難いほどのお世話になってまいりました。これからは「家庭医、かかりつけ医として地域の皆様方の健康づくりに微力ながら貢献し、生活習慣病の合併症である脳卒中、心臓病、腎不全などでなくなったり、要たきりになられたりする患者さんを一人でも少なくするために、医学的根拠に基づき、かつ一人一人の患者さんに最適な医療を進めていきたい」との開院時の理念を忘れず、日々の診療に努めたいと考えております。

そして、昨今の医療費削減政策は如何ともしがたい流れではございますが、限られた医療資源の中で地域住民の皆様方の健康維持・増進・回復に最大限寄与できまように、今まで以上に加古川中央市民病院との連携を密にし地域医療に貢献できたらと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



院長：織辺 敏也 先生



はせがわ内科クリニック

診療科：内科／消化器内科／糖尿病内科／内視鏡内科
駐車場台数：20台

所在地：兵庫県加古川市西神吉町岸 100-11

TEL.079-433-8886

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	-
午後16:00~19:00	○	-	○	-	○	-	-

長谷川先生から

当院は総合内科、糖尿病内科、消化器内科、内視鏡内科を標榜し、2008年春に古来の旧・加古川市民病近くの宝殿が開院しました。その後、市民病院は、西市民病院→中央市民病院と名前が変わり、移転とともに、医師および職員数、診療科数も飛躍的に増加・充実されました。

また母校の神戸大学医学部出身の先輩・後輩諸先生方をはじめお元氣な先生方が大勢ご活躍中とあって、病診連携もスムーズで、大変助かっております。常に、「自分や自分の家族などどのような治療を望むか」を第一に考えながら、日々の診療に努めております。

さらなる精密検査や入院治療等が必要と判断した場合、最近ではほぼ全員の患者様が希望される加古川中央市民病院へ紹介、診察していただいております。今後とも、加古川中央市民病院との連携を密に、癒しのクリニックを目指し、地域医療に邁進していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



院長：長谷川 裕 先生

